

ユキグニハリスゲ	<i>Carex semihyalofructa</i> Tak.Shimizu	絶滅危惧I類
		カヤツリグサ科
選定理由	生育地が限定される上に、もともとの個体数が少なく、継続的な減少が予測されるため。	写真(清水英彦) 標本 
形態の特徴	根茎は横走して叢生せず、基部の鞘は淡褐色。花茎は著しくざらつく。葉の幅は2mm前後。小穂は1個頂生し、雄雌性で5mm前後、雄花部は雌花部よりも短い。果胞は楕円形～卵形で3mm、無毛、明瞭な脈はなく、口部は凹形。果胞が殆ど無脈な点でコハリスゲに似るが、瘦果を著しくゆるく包む点で異なる。柱頭は3岐。花期は7-8月。	
生態的特徴	ブナ帯～シラビソ帯の湿地に生育する多年草。	
分布状況	本州(北陸以北の日本海側)に分布し、岐阜県では県北に分布する。	
減少要因	開発に伴う山林伐採、開発による湿地の消失。	
保全対策	山林の保全、開発行為からの湿地の保全。	
特記事項		
参考文献	勝山輝男. 2005.「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本眞理子. 2011.「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.	

文責:清水英彦